

第11分科会

学生の主体的な学びと自律性を育む 教育の可視化を探究する

報告者

大森 昭生（共愛学園前橋国際大学 学長／教授）

阿部 一晴（京都光華女子大学 キャリア形成学部 教授）

森 朋子（関西大学 教育推進部 教授）

コーディネーター

山田 剛史（京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授）

参加人数

55名

各大学では教育の可視化（3ポリシー、カリキュラムマップ、ルーブリック、ポートフォリオ、IR など）が改革の中心となっている。果たして学生の主体的な学び（学習）や自律性（発達）は促されているのか。AP事業の採択校として既に教育の可視化に取り組んでいる識者を迎え、各大学における事例紹介に加え、この問いを参加者と共有しながら、学生の主体的な学びと自律性を育む教育の可視化の在り方を探究する。

〈第 11 分科会〉

学生の主体的な学びと自律性を育む 教育の可視化を探究する

I. 企画の趣旨

企画の背景として、大きく3つの動きを取り上げる。1つ目は、少子化、ユニバーサル化、グローバル化、高度情報化など「大学を取り巻く環境の変化」。2つ目は、緊縮財政や自由競争化など「大学教育改革に対する社会的関心と政策的圧力」。そして3つ目は、3ポリシー、カリキュラム・マップ、アクティブラーニング、ルーブリック、ポートフォリオなど「教育の質保証（≒可視化）に係る様々な手段の導入」。

そうした動きの中で、今回の分科会において検討したい問いは2つ。1つは、大学の中で教育の可視化をどのように組織的に展開していけば良いのか？（実践的な問い）。いま1つは、（本当に）学生の「主体的な学び」と「自律性」は育まれているのか？（本質的な問い）。

II. 構成

分科会の構成は以下の通り。前半（午前の部）は3名の登壇者からの事例紹介を含む発表を聞き、後半（午後の部）はコーディネーターによる内容の振り返りと論点整理を皮切りに、参加された教職員間でのグループディスカッション、そこで出てきた質問に対するパネリストからのリプライといった形で構成。最後、お題に基づくミニグループワークを行い、今回のテーマ（問い）に対する考えと実践方法を検討・共有する。

＜午前の部＞

- 10:00～10:30 趣旨説明・講師紹介・アイスブレイク（山田）
- 10:30～11:00 発表①：大森昭生（共愛学園前橋国際大学学長・教授）
- 11:00～11:30 発表②：阿部一晴（京都光華女子大学教授）
- 11:30～12:00 発表③：森朋子（関西大学教授）

＜午後の部＞

- 13:30～13:50 論点整理（山田）
- 13:50～14:15 フロアディスカッション
- 14:15～15:15 パネルディスカッション（質疑応答含む）
- 15:15～15:25 「お題」に基づくミニワーク
- 15:25～15:30 クロージング

III. 発表内容の要約+論点整理

各登壇者から発表された内容の要約（キーワード）は以下の通り。各ポイントは、コーディネーターが受けた印象を示したもの。各発表の詳細は、後ろに掲載されている資料を参考にいただきたい。

- (1)『『自律的な学習者の育成』をめざす可視可サイ
クルー共愛学園前橋国際大学の取組事例ー』（大
森先生）

ポイント①「自大学を知り抜いている大学」

ポイント②「人とシステムの最適な関係」

＜キーワード＞

- ・小さいからこそ強み
- ・飛び立たないグローバル
- ・地域にあることの強み（地学一体）
- ・学生アンケート（自己評価）の広報効果



- ・高大社の可視化ツール「共愛キャリアゲート」(学生が成長を語る場)

(2)「京都光華女子大学における教育の可視可(?)の取り組み」(阿部先生)

ポイント①「学生と向き合おうとした取り組みが可視化につながる」

ポイント②「可視化によって「観」えなくなるもの」
＜キーワード＞

- ・授業外学習時間の捉え方の拡張(「学習行動調査」)
 - ・自己評価と教員評価のズレ(「ループリック」の活用)
 - ・「学びのふりかえり」… 数値化は学生と教員の対話のきっかけ
 - ・目的は「個々の学生の成長を支援する」
- ⇒学び(学習成果)と成長(自立)の関係



(3)「『教える』と『学ぶ』を支える IR とは」(森先生)

ポイント①「学びは可視化できない!」

ポイント②「学生の学びを大学ブランディングに」

＜キーワード＞

- ・「教える」と「学ぶ」の関係
- ・間接的関与(教員⇒学生)から直接的関与(学生⇒教員)へ
- ・質保証の範囲を同定(準正課プログラムも含めたグランドデザイン)
- ・教育の主体(学部)の主体性
- ・ニーズ対応型、プロジェクト型で教学 IR を推進

Ⅳ. フロアディスカッション

55名の参加者は10グループに分かれ、それぞれのグループで以下の3点について話し合った。一定時間のディスカッションの後、各グループで話し合った内容を紹介してもらうとともに、登壇者への質問を投げかけてもらった。

- (1) ここまでの発表内容等を通じて、最も印象に残っていること
- (2) ぜひ、議論したいこと
- (3) 登壇者に聞いてみたいこと

Ⅴ. 「お題」に基づくミニワーク

最後は、午前中の発表、午後のグループディスカッションと全体での質疑応答を踏まえて、以下の問いについて各グループで話し合ってもらった。

- (1) 学生の「主体的な学び」と「自律性」の育成に必要なことはなんですか？
- (2) 各グループで最も重要だと思うものを「3つ」挙げてください

このワークの内容を会場全体で共有する時間を取ることはできなかったが、今回提示した「難問」について参加者全員で考え、日常の実践と結びつける意義と可能性を共有することはできたように感じている。非常に積極的に参加し、分科会を盛り上げてくれた参加者のみなさま、自大学における事例発表およびディスカッションを通じて有益な知見を提示してくれた発表者のみなさまに感謝申し上げる。

文責・コーディネーター(京都大学准教授／山田剛史)

LOCAL PROJECT

グローバル連携とGGJ・COCの実践が特徴的。産学、官民、国際連携プログラムを実施

スーパーグローバル大学等事業、経済社会の発展を導くグローバル人材育成支援（国）

国際社会学部
国際コース
国際・経済コース
心理・人間文化コース
国際教育コース

国際社会学部

国際コース
国際・経済コース
心理・人間文化コース
国際教育コース

GGJ・COC・AP・COC+の4大事業について、同時に実施されているものは全国で2大学のみ

地(知)の拠点

GGJ・COC・AP・COC+の4大事業について、同時に実施されているものは全国で2大学のみ

GGJ・COC・AP・COC+の4大事業について、同時に実施されているものは全国で2大学のみ

学修プログラム

学修プログラム
学修プログラム
学修プログラム

地(知)の拠点

GGJ・COC・AP・COC+の4大事業について、同時に実施されているものは全国で2大学のみ

地域連携で取り組むグローバル人材育成

One on One English
Global Skills 1st 4th
英語の力
英語の力
英語の力

様々な留学研修プログラム

アメリカン・イノベーション
オーストラリア研修
ニュージーランド研修
イギリス研修
海外インターンシップ
海外インターンシップ
海外インターンシップ

学生の海外経験率 約50%

地学一体で取り組む地域人材育成

地域連携で取り組むグローバル人材育成

地域連携で取り組むグローバル人材育成

地域実践演習

地域実践演習
地域実践演習
地域実践演習

サービスラーニングチーム

サービスラーニングチーム
サービスラーニングチーム
サービスラーニングチーム

地学一体の人材育成～高大接続・産学連携のその先へ

地域人材育成協議会
地域人材育成協議会
地域人材育成協議会

高大接続

高大接続
高大接続
高大接続

産学連携

産学連携
産学連携
産学連携

参考資料

参考資料
参考資料
参考資料

高大連携コラボゼミ

高大連携コラボゼミ
高大連携コラボゼミ
高大連携コラボゼミ

学生生活

学生生活
学生生活
学生生活

アクティブラーニング(AL)とその環境

アクティブラーニング(AL)とその環境
アクティブラーニング(AL)とその環境
アクティブラーニング(AL)とその環境

クラス規模

クラス規模
クラス規模
クラス規模

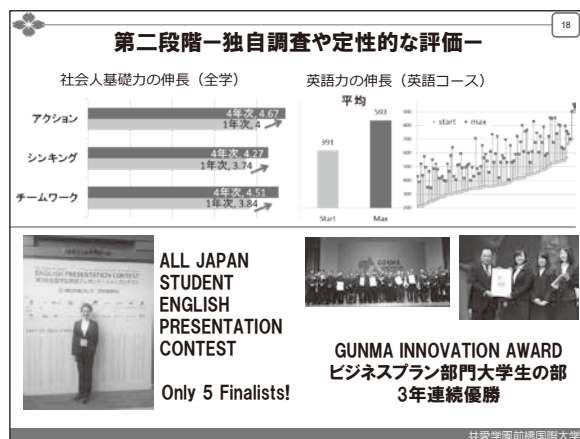
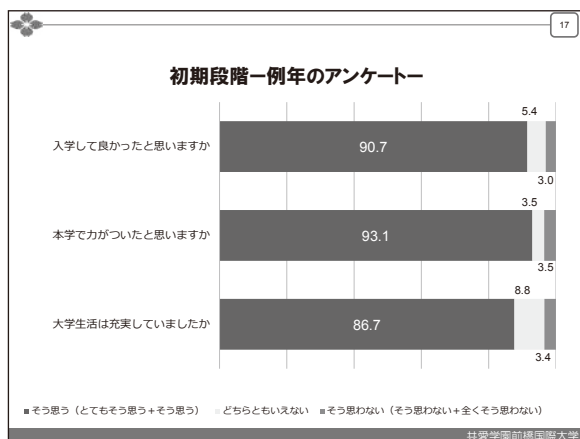
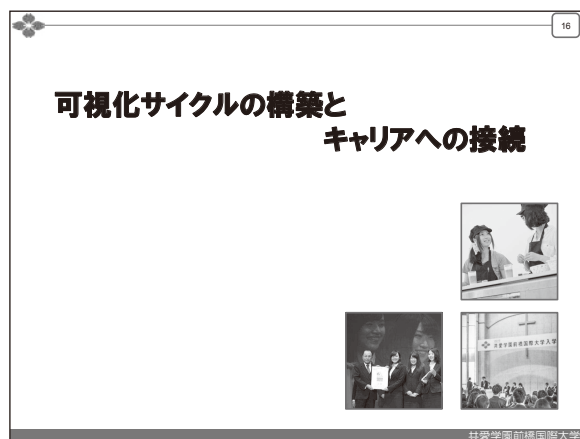
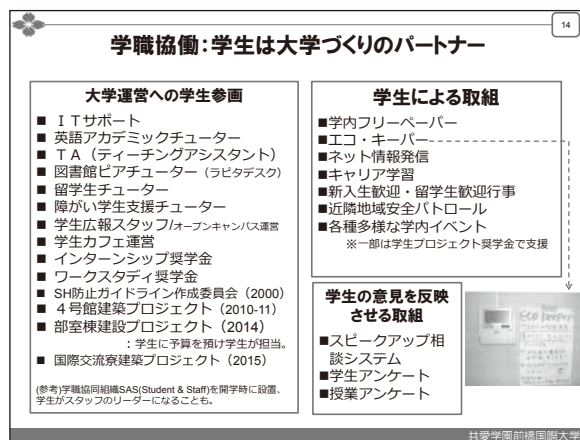
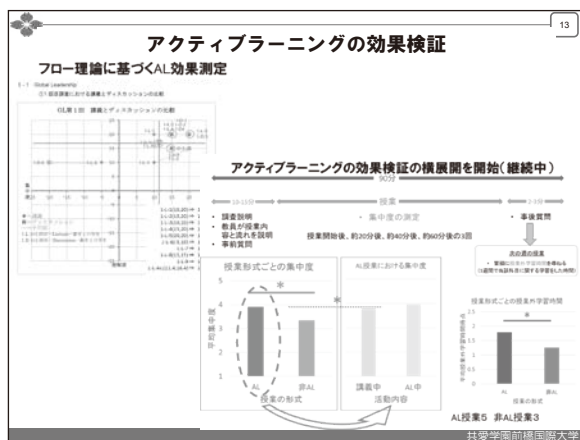
教育質転換

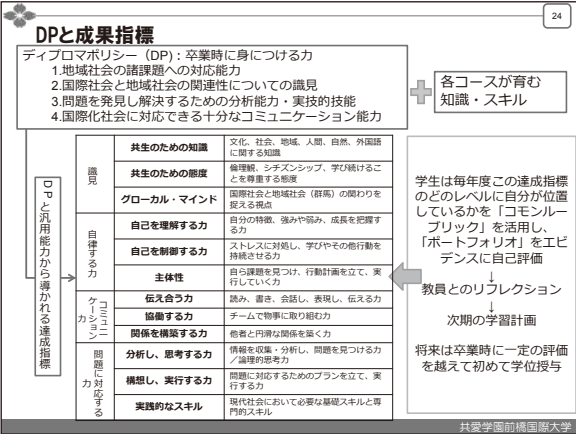
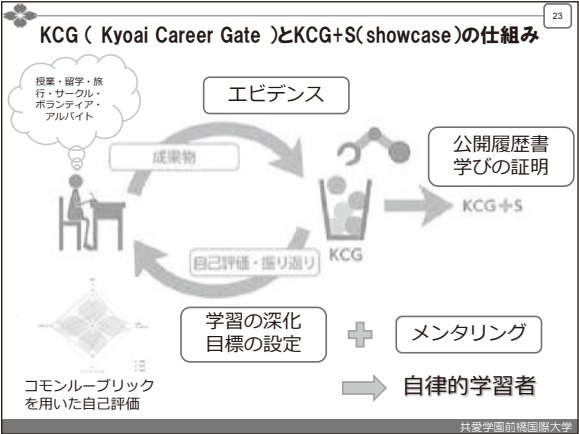
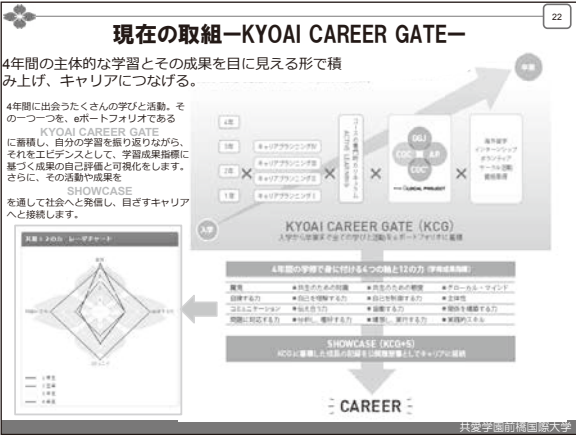
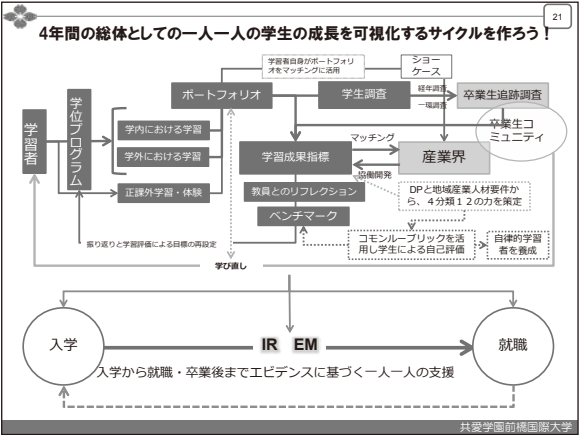
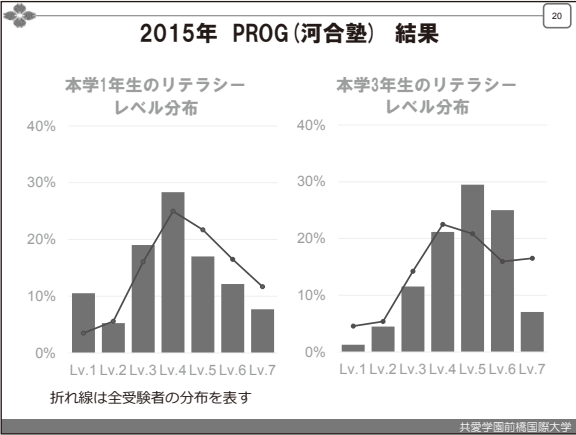
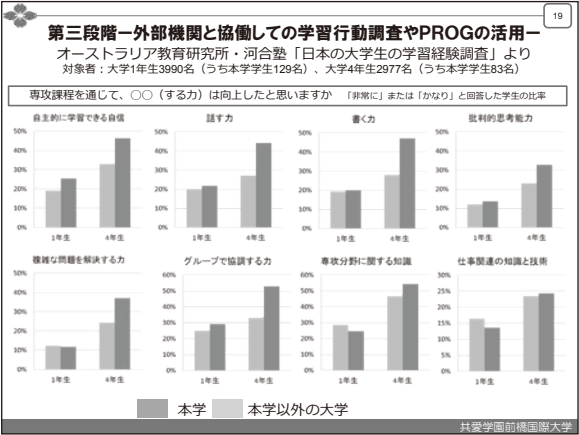
教育質転換
教育質転換
教育質転換

卒業までに

卒業までに
卒業までに
卒業までに

258





[illegible]

26

Kyoai Career Gateの考え方

参考にさせていただいたある大学によるシステマチックな可視化手法

科目	F01	F02	F03	F04	F05	F06
英語	0.5	0.4	0.4	0.2		
化学				0.5		
一般教養					0.7	0.3

成績による順位

英語 1

化学 2

一般教養 3

順位 4

コンセプト 自律的な学習者の育成

「エビデンス・ベーストの自己評価」

学生による自己評価を基礎とした可視化

個人の学習成果について、学生自身が最も多くの判断断片を持っている

- ・ 学生独自の振り返り
- ・ 卒業生との対話・交流
- ・ 学習成果の可視化

私たちの悩み

- 単なる「第二成績表」になっていないか？
⇒ 自律的ではない
⇒ 学生が可視化に関与しておらず、受動的な評価となる
- 評価の努力費化
⇒ チャートが示す「現在の実力」ではなく「これまでの努力」
- ポートフォリオなど他の可視化システムとの連携が不十分
- 学生の自己認識とのズレ

エビデンスの蓄積

授業実習部 国際大学



Kyoai Career Gate の実際①

17



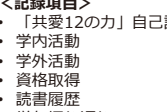
このページは、Kyoai Career Gateのホームページのスクリーンショットです。上部には「Kyoai Career Gate」のロゴと「ようこそ」のメッセージがあります。中央には「会員登録」のボタンが複数表示されています。下部には「会員登録」のリンクと「会員登録」のボタンがあります。

＜記録項目＞

- ・「共愛12の力」自己評価
- ・学内活動
- ・学外活動
- ・資格取得
- ・読書履歴
- ・学年振り返り
- ・授業振り返り
- ・(履修情報一覧)



このページは、Kyoai Career Gateの記録ページのスクリーンショットです。上部には「記録項目」のタブがあり、「自己評価」が選択されています。中央には「自己評価」の記録が複数表示されています。下部には「自己評価」の記録が複数表示されています。



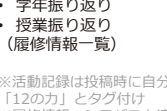
このページは、Kyoai Career Gateの記録ページのスクリーンショットです。上部には「記録項目」のタブがあり、「学内活動」が選択されています。中央には「学内活動」の記録が複数表示されています。下部には「学内活動」の記録が複数表示されています。



このページは、Kyoai Career Gateの記録ページのスクリーンショットです。上部には「記録項目」のタブがあり、「学外活動」が選択されています。中央には「学外活動」の記録が複数表示されています。下部には「学外活動」の記録が複数表示されています。



このページは、Kyoai Career Gateの記録ページのスクリーンショットです。上部には「記録項目」のタブがあり、「資格取得」が選択されています。中央には「資格取得」の記録が複数表示されています。下部には「資格取得」の記録が複数表示されています。



このページは、Kyoai Career Gateの記録ページのスクリーンショットです。上部には「記録項目」のタブがあり、「読書履歴」が選択されています。中央には「読書履歴」の記録が複数表示されています。下部には「読書履歴」の記録が複数表示されています。



このページは、Kyoai Career Gateの記録ページのスクリーンショットです。上部には「記録項目」のタブがあり、「学年振り返り」が選択されています。中央には「学年振り返り」の記録が複数表示されています。下部には「学年振り返り」の記録が複数表示されています。



このページは、Kyoai Career Gateの記録ページのスクリーンショットです。上部には「記録項目」のタブがあり、「授業振り返り」が選択されています。中央には「授業振り返り」の記録が複数表示されています。下部には「授業振り返り」の記録が複数表示されています。



このページは、Kyoai Career Gateの記録ページのスクリーンショットです。上部には「記録項目」のタブがあり、「履修情報一覧」が選択されています。中央には「履修情報一覧」の記録が複数表示されています。下部には「履修情報一覧」の記録が複数表示されています。

社団法人 全国学生自治会連合会

KCGの実際③ 12の力にタグづけされたエビデンス

シラバスにおいて各授業で身につく力が明示されKCGとリンク

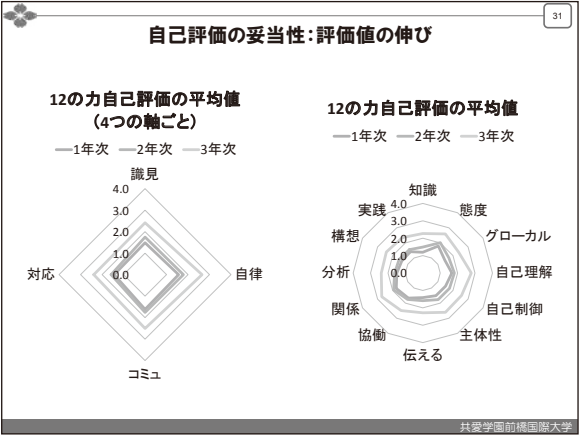
学生は活動を記録し振り返るときの12の力をタグづける

KCG
Kansai Career Gate

2018年度	初期	中期	後期	卒業
① 基礎	② 応用する力	③ コミュニケーション力	④ 発展に特化する力	
⑤ 問題のための知識	⑥ 問題を把握する力	⑦ 成長する力	⑧ 世界に思考する力	
⑨ 社会の力の整理	⑩ 社会を知解する力	⑪ 成長する力	⑫ 世界に思考する力	
⑬ グローバル・マインド	⑭ 思考力	⑮ 成長する力	⑯ 世界に思考する力	

□ カゴと蓄えられたエビデンスを横断検索することができる
□ ループリックで自己評価する際にエビデンスも記入

[illegible]



自己評価の妥当性：他の指標との関連

- 学年進行に伴う評価値の伸び
- 12の力すべてにおいて、自己評価とGPAに有意な相関 (+0.2~0.3)
- 12の力それぞれの自己評価は、ジェネリックスキルを測定するテスト (PROG) の個々の要素と整合的な相関パターンを示した

自己評価の妥当性を確認

↓

- 自己評価データを本学IRデータベースに統合し、活用
- 教職員は学生の自己評価をKCG上で閲覧、指導に活用

↓

- 学習成果の可視化・キャリアへの接続
- カリキュラムの質保証とアカウントビリティ

共愛学園前橋国際大学

KCG・KCG+Sへの期待

ラーニングポートフォリオの側面 (教育的)

- ・ 「評価」 自身が「学習」であり、より深い学びが喚起される。
- ・ 目標設定や自身の省察を行うことにより、メタ認知の促進が起こる。

⇒ 論理的思考力
課題対応能力

キャリアポートフォリオの側面 (キャリア形成)

- ・ 目標や達成度を吟味する機会となる。
- ・ 客観性が担保された自己認識が成立する。
- ・ メタ認知が、広範囲にわたる意思決定やプランニング活動を喚起する。

⇒ 自己理解
自己管理能力
キャリアプランニング能力

共愛学園前橋国際大学

Kyoei Career Gate 運用と課題

教職員が大学運営の中で共愛12の力を意識し始める
= 教育の目標が明確になった

一年生がKCGへの書き込みを始める
= 初年次教育の重要性
⇒ 上級生は苦戦

高大接続への活用の可能性が見えてきた

KCG活用支援の充実が課題
→ 専門スタッフを配置
→ 教員の関与の活性化

リフレクションの時間確保が課題

地域社会への周知が課題

共愛学園前橋国際大学

(参考)

- 本学WEB : <http://www.kyoei.ac.jp>
- 本学FB : <https://www.facebook.com/kyoei.ac.jp>
- GGJ HP : <http://ghrd.kyoei.ac.jp/>
- COC HP : <http://coc.kyoei.ac.jp/>
- KYOAI Global Project FB : <https://www.facebook.com/KYOAI.GLOBAL.PROJECT>
- コピキタキャンパス : <http://www.kyoei.ac.jp/ipod/index2.html>
- KYOAI COMMONS : <http://www.kyoei.ac.jp/4thBld/>
- KYOAI COMMONS FB : <https://www.facebook.com/KYOAI.COMMONS>
- サービスラーニングタム学生報告動画 : <http://coc.kyoei.ac.jp/report/event/4173>

- 『地域に愛される大学のすすめ』 (三省堂) :
 - http://www.sansendo-publ.co.jp/publ/gen/genfeda/chiki_ai_daigaku/
- 『『深い学び』につながるアクティブラーニング—全国大学の学科調査報告とカリキュラム設計の課題』 (編著：河合塾 / 東信堂) :
 - <http://www.kawaijuku.jp/research/book/#book08>
- 『私立大学に何がおこっているのか』 (岡本史記 / 成文堂) :
 - <http://www.seibundoh.co.jp/publ/search/030227.html>
- 『大学の戦略的経営手法』 (編著：岩崎俊彦 / 大学教育出版) :
 - <http://www.kyokusha.co.jp/syosetsu/cg/book950>
- 『消えゆく「境界大学」 私立大学定員割れの構造』 (著：小川洋 / 白水社) :
 - <http://www.hakususha.co.jp/book/b253052.html>

共愛学園前橋国際大学

大森 昭生 共愛学園前橋国際大学 学長(国際社会学部 教授)

<https://sites.google.com/site/nakamori/>

1960年、宮城県仙台市生まれ。東北学院大学文学部英文学科、同大学院博士課程にて研究。1996年に学校法人共愛学園に入園。共愛学園前橋国際大学助教授等を経て、現職。

都市とアメリカ文学で博士論文を提出。地域における各種公的委員を務めるほか、各地での講演多数。3児を育てており、二人目・三人目出産に際し育児休業を取得。

最近の主な講演等

- 1998年 共愛学園女子短期大学専任講師
- 1999年 共愛学園前橋国際大学専任講師
- 2003年 共愛学園前橋国際大学国際社会学部長、同助教授
- 2004年 埼玉大学教育学部社会福祉学専攻 (～2011年)
- 2005年 群馬県立女子大学文学部社会福祉学専攻 (～2014年)
- 2007年 共愛学園前橋国際大学専任講師
- 2013年 共愛学園前橋国際大学学長
- 2016年 共愛学園前橋国際大学学長

最近の主な講演等

- 中核市長選「地方創生にむけた子育て支援」コーディネーター (2018年11月)
- 群馬県立女子大学学長 (2015年8月)
- 私立大学連合会会長 (2015年7月)
- 大学マネジメント改革推進大会 (2014年11月)
- JTB産業観光振興会 (教育版) (2014年9月)
- New Education Expo「地域に愛される大学づくり」 (2014年8月)
- 群馬県新雇用創出推進 (男女共同参画) (毎年実施)
- 文科省・GGJ採択大学主催Go Global Japan Expo (2013年～毎年)
- その他、地域づくり、男女共同参画、父親の子育て、学運等に関する講演・自治体職員研修、大学FSD関係者多数。

著書等

- 2016年 共愛学園男女共同参画社会づくりのための副読本—未来— (中学生) / (小・中・高) (教材・教員用指導書) (共著) 2002年3月
- 『男女共同参画時代における子育て支援をめぐって』 (共著) 2003年7月 (日本女性学研究会)
- 『地域に愛される大学のすすめ』 (インタビュー形式で参画) 2011年8月 (三省堂)
- 『アース・ハミングウェイ—21世紀から読む世界の地学—』 (共編著・編集委員) 2012年12月 (創刊書店)
- 『ハミングウェイの夢』 (共編著・編集委員) 2012年5月 (創刊書店)
- 『『深い学び』につながるアクティブラーニング—全国大学の学科調査報告とカリキュラム設計の課題』 (河合塾編・共著) 2013年4月 (東信堂)
- 『『大いなる心と魂の物語』—「魂」をなすことと「共生」—』 (共著) 2013年12月 (上毛新聞社事業局出版部)

地域における活動 (公的委員等、2016年度現在)

群馬県

- 群馬県男女共同参画推進委員会会長
- 群馬県男女共同参画推進委員会会長
- くまもと県政センターアドバイザー
- 群馬県少子化対策推進委員会
- 群馬県教育委員会大連携協議会委員
- 群馬県立総合教育センターアドバイザー
- 群馬県立総合教育センターアドバイザー
- 群馬県立総合教育センターアドバイザー

市町村

- 高橋まきばし地方創生本部有識者会議委員
- 群馬県社会教育委員
- 群馬県歴史文化遺産活用委員会代表
- 群馬県立総合教育センターアドバイザー
- 伊勢崎市教育「教育改善・いばき未来会議」委員
- 伊勢崎市男女共同参画推進協議会会長
- 太田市立高校グローバル推進実行委員会副会長

その他

- 群馬県まちづくり公社評議員
- 群馬県国際交流協合理事
- 群馬県立総合教育センターアドバイザー
- 群馬県立総合教育センターアドバイザー
- 群馬県立総合教育センターアドバイザー

<http://www.kyoei.ac.jp/> 〒379-2122 群馬県前橋市小原町1154-4 共愛学園前橋国際大学

京都光華女子大学における教育の可視化（？）の取り組み

京都光華女子大学 キャリア形成学部 教授 阿部 一晴

京都光華女子大学
健康栄養学部・看護学部・医療福祉学部・心理学部

京都光華女子大学における 教育の可視化（？）の取り組み

第22回FDフォーラム
第11分科会 学生の主体的な学びと自律性を
育む教育の可視化を追求する

2017年3月5日

京都光華女子大学 キャリア形成学部
阿部 一晴

京都光華女子大学

1940年 光華高等女学校
として設立
真宗大谷派（東本願寺）
宗門校
「仏教精神に基づく
女子教育の実現」が
建学の精神

幼稚園・小学校・中学校
高等学校・短期大学を併設

- 健康科学部
 - 健康栄養学科
 - 看護学科
 - 医療福祉学科
 - 心理学
- こども教育学部
 - こども教育学科
- キャリア形成学部
 - キャリア形成学科
- 短期大学部
 - ライフデザイン学科

自己紹介

阿部 一晴(あべ いっせい)
京都光華女子大学 キャリア形成学部

担当科目: ICT演習 キャリア形成ゼミ 経営学 経済学 情報技術の理解
ビジネスソリューション eビジネス/eコマース 情報社会の理解 他
研究領域: 情報通信技術の社会への応用・ソフトウェア開発プロセスの改善
環境政策分野(地球温暖化防止)における情報通信技術の活用
経済産業省情報処理技術者 ITストラテジスト・上級システムアドミニストレータ・
プロジェクトマネージャ・アプリケーションエンジニア
情報処理学会・情報通信学会・教育システム情報学会・日本UNIXユーザ会
経営情報学会・情報システム学会・プロジェクトマネジメント学会
情報コミュニケーション学会
日本ITストラテジスト協会・アジャイルプロセス協議会 会員

メール: i_abe@koka.ac.jp

京都光華女子大学

私の役割（所属）

- 学内
 - キャリア形成学部 キャリア形成学科
 - 情報教育センター運営委員
 - 情報セキュリティ委員
 - EM・IR連絡委員
 - EM・IR部員（平成26年度まで）
 - FD・自己点検評価委員（平成26年度まで）
- 学外
 - 公益財団法人大学コンソーシアム京都
 - 教育事業企画検討委員会 委員
 - FD企画研究委員会 委員
 - 真宗教団連合 出版広報委員

京都光華女子大学

阿部 一晴 教授

酒井 浩二 教授

阿部 一晴 教授

阿部 一晴 教授

本日も話すること

- 背景（京都光華女子大学のEM・IR）
- 実施している様々なアセスメント
- 大学教育再生加速化プログラム（AP）での取り組み
 - 光華AL水準・アセスメント
 - ルーブリック・セルフチェック
- その他諸々、思うこと・・・
（所属する組織の公式見解ではありません）

京都光華女子大学

京都光華女子大学

http://www.koka.ac.jp/campuslife/enrollment.html

京都光華女子大学

本学EM・IRの出発点

▶ 現代GP 平成19年度選定
「学生個人を大切にしたいキャリア教育の推進」
本学がこれまで取り組んできたキャリア教育および就職支援への姿勢と実績が評価されて、選定された。本学ではこれを受けて、文部科学省の補助事業として、さらに強力なキャリア（形成）教育と（就職などの）キャリア支援を推進している。

▶ 学生支援GP 平成20年度選定
「学生個人を大切にしたい総合的支援の推進」
エンrollment・マネジメントと個別対応教育モデルの実践的融合
本学では平成18年度に、学生の入学前から卒業後までを対象に一貫して教育と学生支援を組織的・体系的に展開し、満足度の高い教育サービスを実現するという総合学生支援策「エンrollment・マネジメント（EM）」をスタートさせた。このGPの取り組みは、これをさらに大きく前進させようとする取組である。

京都光華女子大学

EMの基本理念

- ▶ 入学前から卒業後まで、教育・生活全般に渡って学生を支援する“総合学生支援策”。
個別対応教育と学生生活支援を統合した“総合学生支援”
- ▶ これを構成する諸支援施策を（組織横断的な管理により）総合的にマネジメントする。
- ▶ データ（事実）に基づいて科学的に諸施策を立案・実施・評価する。
→ IR（経営IR・教学IR）
 - 個々の学生支援策がEMではない
 - 総合的にマネジメントするのがEM

京都光華女子大学

情報（入学生、在学生に関するもの）

時点	調査・データ	学年毎の時点				
		入学前	1年	2年	3年	4年
入学前	入試成績	△				
	評定平均	△				
	欠席状況	△				
	オープンキャンパス参加状況	△				
	体験入学参加状況	△				
	入学前教育受講状況	△				
	その他	△				
新入時	プレースメントテスト		○			
	新入生調査（？）		○			
在学時	光華ライフアルバム		○	○	○	○
	授業アンケート結果		○	○	○	○
	満足度（光華ライフアルバム内）		△	○	○	○
	出欠状況		○	○	○	○
	学生カルテ（面談結果、注意事項など）		○	○	○	○
	単位修得状況		○	○	○	○
	成績（GPA）		○	○	○	○
	自己発見レポート調査結果		○			
	キャリアアプローズ調査結果				○	
	就職活動状況報告					○
卒業時	その他					○
	卒業時満足度調査					○

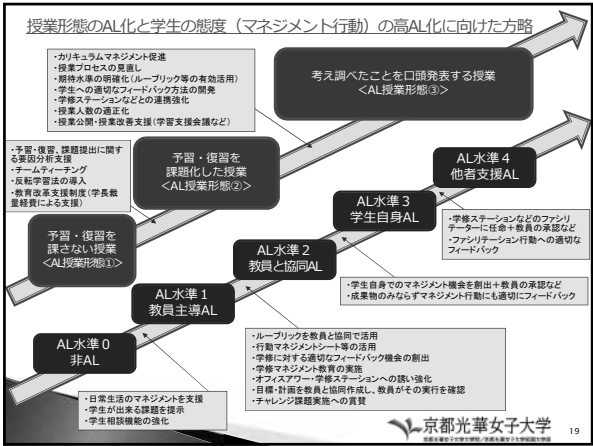
京都光華女子大学

平成28年度の学修アセスメント体系（大学）

区分	4月	5月	6月	10月	1月	3月
1年	テスト プレースメント	大学生基礎力 テスト		光華ライフアルバム		
2年				光華Aアセスメント	社会人基礎力 テスト	DPルーブリック
3年						
4年						リリック DPルーブリック 卒業時アセスメント

※社会人基礎力テストの時にカリキュラム満足度、進路意識など付帯調査予定
今後、京都光華コンモンシップルーブリックの開発を進める

区 分	概 要
大学生基礎力テスト	入学段階での学生の入学動機、学びの意識、基礎学力、進路意識等を把握
光華ライフアルバム （学生支援GP）	学生の学生生活の状況や進路形成行動などを客観化させ、内省を通じて自らを自主管理できる能力を育成
光華ALアセスメント	学生のアクティブラーナー度（主体的な学修態度・行動）を客観的に可視化するため大学APで開発中のもの
学習時間等学修行動調査	授業以外の学習実態の把握（目的、時間、場所）
社会人基礎力テスト	社会で求められる能力を「リテラシー」と「コンピテンシー」の2側面から客観的に測定しようとするもの
DPルーブリック	ディプロマポリシーを構成する項目ごとに学生が自己評価し、DP達成度を測定。教育成果の間接的な評価として活用
卒業時満足度アンケート	授業や進路をはじめ学生生活全般について卒業生の満足度を把握



光華アクティブラーニング（AL）水準と行動指標

AL水準	AL① 非AL	AL② 教員主導AL	AL③ 教員と協同AL	AL④ 学生自身AL	AL⑤ 他者支援AL
学びの水準	非大学生水準	大学生の学び <準備水準>	大学生の学び <初歩水準>	大学生の学び <進歩水準>	大学生の学び <利他水準>
課題 実施水準	課題が提出されて いない (容易な内容+ 教員の支援で提 出できる)	内容に関わらず 課題提出はでき る(言われたこと は守るが期待さ れた水準に達し ていない)	アクティブに教 員の支援を受け ることで、 課題は期待され た水準に達する ことができる	期待された課題 を自律的に 学修すること ができる	自律的に学び、 他者を支援する ことができる (建学の精神に うたう人材像)
口頭 発表水準	口頭発表を課す のは難しい	内容に関わら なければ口頭発表 はできる(受動的 な口頭発表)	内容のある口頭発表が期待できる (能動的な口頭発表)		
AL 行動 指標	課題提出率、 口頭発表回数	課題提出率、 口頭発表回数	オフィスアワー・ チャレンジ・ 課題提出率	口頭発表率、 課題率、 チャレンジ課題 提出率	他者支援回数
AL 授業 形態	予習・復習を課題化した授業 (AL授業形態①)	予習・復習を課題化した授業 (AL授業形態②)	予習・復習を課題化した授業 (AL授業形態③)		

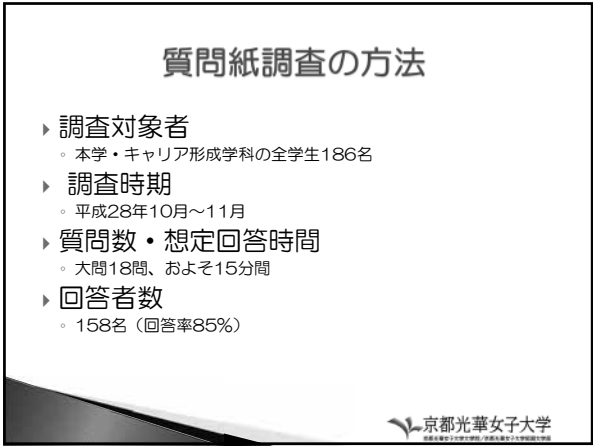
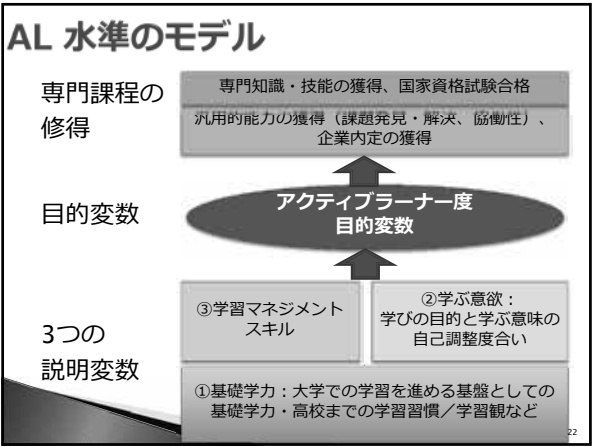
京都光華女子大学

AL 水準表

本学での教育実践に基づいて作成した概念図

水準	0	1	2	3	4
名称	非AL	教員主導AL	教員と協同AL	学生自身AL	他者支援AL
定義	課題の提出など 守れない 言われたことが 十分でない	・教員に言わ れたことは何 とかやれる ・自ら工夫し て学びに取り 組むというこ とはしない	・教員が指示 したこと以外 にも主体的に 学ぶ姿勢 ・学ぶ方法を 獲得しておら ず、教員と協 働で学ぶ	教員の指示が なくても主体 的に学ぶこと ができる	自分の学んだこ とを他者に分 かりやすく教 育でき、他者 の学習意欲を 高められる
3つの 要素	×基礎学力 ×学ぶ意欲 ×学習マネジ メントスキル	○基礎学力 ×学ぶ意欲 ×学習マネジ メントスキル	○基礎学力 ○学ぶ意欲 ×学習マネジ メントスキル	○基礎学力 ○学ぶ意欲 ○学習マネジ メントスキル	○基礎学力 ○学ぶ意欲 ○学習マネジ メントスキル

京都光華女子大学



京都光華女子大学
アクティブラーナー度に関する調査 2016

調査結果

調査結果の分析

京都光華女子大学

おもな質問項目

- この1年をふりかえり、苦手意識を聞き出して、改善策と一緒に考える。
- ▶ 個別票のAL水準値は実感に合うか
 - ▶ 前年比で数値の変動があった項目について、その理由
 - ▶ AL調査を用いた面談は役に立ちそうか

その他の取組

- ▶ セルフチェックシート；学習行動
- ▶ ルーブリック
 - 各汎用力
 - AL水準
 - ティプロマポリシー
- ▶ 外部テスト

セルフチェックシートとルーブリック

- ▶ 6つの汎用力に関する学習行動と学習成果
 - 学習行動：学生が自己評価（セルフチェックシート）
 - 学修成果：担当教員が評価（ルーブリック）
- ▶ H27年度に項目作成、H28年度に一部科目で実践

	学習行動	学習成果
①ノートテイキング	○	
②文献読解	○	
③レポート作成	○	○
④情報活用		○
⑤プレゼンテーション	○	○
⑥ディスカッション	○	○

学習行動のセルフチェックシート例

- ▶ 「③レポート作成」の学習行動チェックリスト①

No.	項目	1	2	3	4	5
Q1	授業中にノート(またはルーズリーフ等)をとりましたか？	口頭での説明も書きとり、授業後に感想や要約を書き足した	口頭での説明も書きとった	黒板に書かれた内容だけ書きとった	ノートを用意したが何も書いていない	ノートは持っていない
Q2	計画(スケジュール)を立ててレポートを書きましたか？	計画に沿って書いた	だいたい計画に沿って書いた	計画に沿って書くつもりだったが、思い通りにいかなかった	計画は立てただけ	計画を立てなかった
Q3	レポートに関連する書籍・資料を調べましたか？	インターネット上のニュース・資料のほか書籍や論文なども調べた	インターネット上のニュース・資料のほか書籍や論文なども調べた	googleなどで検索し、ヒットしたものを読んだ	WikipediaとYahoo知恵袋の書き込みを読んだ	何も調べなかった
Q4	書籍・資料をどのように読みましたか？	資料にラインを引き、ノートに要約・感想・他の資料との関連などを書き込んだ	資料にラインを引き、ノートに要約・感想・他の資料との関連などを書き込んだ	資料を注意深く読んで、重要箇所をラインを引いた	資料をプリントアウトし、注意深く読んだ	PCの画面上で資料にざっと目を通した
Q5	レポートを書く前に授業の資料を見直しましたか？	資料を事前に授業の資料を見直した	資料を事前に授業の資料を見直した	資料を事前に授業の資料を見直した	資料は保管しているが、見直しをしなかった	資料をなくした

学習行動のセルフチェックシート例

- ▶ 「③レポート作成」の学習行動チェックリスト②

Q6	レポートの準備と執筆にトータルでどれくらい時間をかけましたか？	7日以上	5～6日間	3～4日間	1～2日間	半日以下
Q7	レポート提出前に、内容や誤字脱字をチェックしましたか？	PCの画面上でチェックし、プリントアウトした。だが、紙面上ではチェックしていない	PCの画面上でチェックし、プリントアウトした。だが、紙面上ではチェックしていない	PCの画面上でひと通りチェックした。だが、紙面上ではチェックしていない	PCの画面上で一部チェックした	何もチェックしていない
Q8	レポートの論点について教員に質問したり、友人と議論したりしましたか？	自主学習会に参加し、グループで議論をおこなった	教員に質問したが、友人とも議論した	友人と議論したが、教員への質問はしていない	教員に質問したが、友人との議論はしていない	質問も議論もしていない
Q9	(以下は学習ステーションの利用状況調査のためのアンケートです) レポートを書くさいに学習ステーションを利用しましたか？	学習ステーションは普段からいつも利用している	締切りの1週間以上前から何回も利用している	締切りの週に何回も利用した	締切りの前日・当日だけ利用した	利用していない
Q10	どのように学習ステーションを利用しましたか？	DVDの視聴・学習会・ミニ講義などのイベントに参加した	作文の添削・指導をお願いした	自学習のスペースとして使った	PCを借りた	利用していない

学習成果のセルフチェックシート例

- ▶ 「④情報活用」の学習成果チェックリスト①

Q1	「④情報活用」の学習成果チェックリスト①	1	2	3	4	5
Q1	授業中にノート(またはルーズリーフ等)をとりましたか？	口頭での説明も書きとり、授業後に感想や要約を書き足した	口頭での説明も書きとった	黒板に書かれた内容だけ書きとった	ノートを用意したが何も書いていない	ノートは持っていない
Q2	計画(スケジュール)を立ててレポートを書きましたか？	計画に沿って書いた	だいたい計画に沿って書いた	計画に沿って書くつもりだったが、思い通りにいかなかった	計画は立てただけ	計画を立てなかった
Q3	レポートに関連する書籍・資料を調べましたか？	インターネット上のニュース・資料のほか書籍や論文なども調べた	インターネット上のニュース・資料のほか書籍や論文なども調べた	googleなどで検索し、ヒットしたものを読んだ	WikipediaとYahoo知恵袋の書き込みを読んだ	何も調べなかった
Q4	書籍・資料をどのように読みましたか？	資料にラインを引き、ノートに要約・感想・他の資料との関連などを書き込んだ	資料にラインを引き、ノートに要約・感想・他の資料との関連などを書き込んだ	資料を注意深く読んで、重要箇所をラインを引いた	資料をプリントアウトし、注意深く読んだ	PCの画面上で資料にざっと目を通した
Q5	レポートを書く前に授業の資料を見直しましたか？	資料を事前に授業の資料を見直した	資料を事前に授業の資料を見直した	資料を事前に授業の資料を見直した	資料は保管しているが、見直しをしなかった	資料をなくした

学習成果のセルフチェックシート例

「④情報活用」の学習成果チェックリスト②

項目	【能力】 【知識・技能】	【態度・行動】	【能力】 【知識・技能】	【態度・行動】
13	情報機器を用いて、インターネットなどを利用した検索の仕方に関する知識・技能を身に付け、必要に応じて活用するよう心がけているか。			
14	情報機器を用いて、必要に応じて検索の仕方に関する知識・技能を身に付け、必要に応じて活用するよう心がけているか。			
15	データベースを用いて、必要に応じて検索の仕方に関する知識・技能を身に付け、必要に応じて活用するよう心がけているか。			
16	情報機器を用いて、必要に応じて検索の仕方に関する知識・技能を身に付け、必要に応じて活用するよう心がけているか。			
17	情報機器を用いて、必要に応じて検索の仕方に関する知識・技能を身に付け、必要に応じて活用するよう心がけているか。			
18	情報機器を用いて、必要に応じて検索の仕方に関する知識・技能を身に付け、必要に応じて活用するよう心がけているか。			
19	情報機器を用いて、必要に応じて検索の仕方に関する知識・技能を身に付け、必要に応じて活用するよう心がけているか。			
20	情報機器を用いて、必要に応じて検索の仕方に関する知識・技能を身に付け、必要に応じて活用するよう心がけているか。			
21	情報機器を用いて、必要に応じて検索の仕方に関する知識・技能を身に付け、必要に応じて活用するよう心がけているか。			
22	情報機器を用いて、必要に応じて検索の仕方に関する知識・技能を身に付け、必要に応じて活用するよう心がけているか。			
23	情報機器を用いて、必要に応じて検索の仕方に関する知識・技能を身に付け、必要に応じて活用するよう心がけているか。			
24	情報機器を用いて、必要に応じて検索の仕方に関する知識・技能を身に付け、必要に応じて活用するよう心がけているか。			

DPルーブリック

学生による自己評価

項目	1	2	3	4	5
1. 学習態度					
2. 学習成果					
3. 学習態度					
4. 学習成果					
5. 学習態度					
6. 学習成果					
7. 学習態度					
8. 学習成果					
9. 学習態度					
10. 学習成果					
11. 学習態度					
12. 学習成果					
13. 学習態度					
14. 学習成果					
15. 学習態度					
16. 学習成果					
17. 学習態度					
18. 学習成果					
19. 学習態度					
20. 学習成果					
21. 学習態度					
22. 学習成果					
23. 学習態度					
24. 学習成果					

全学的な外部テスト

- 1年生対象
 - 大学生基礎カレポートⅡ
- 2年生対象
 - PROG
- (3年生対象)
 - (キャリア・アプローチ)
- 学科会議でアセスメント結果を報告
- 個別学生の結果を、クラスアドバイザーが学内ポータルサイトで参照可能

平成28年度 学習行動についての調査 12/1(木)～12/22(木)

「学習行動」についての調査は、学生の皆さんが行っている学習について、①場所、②時間、③内容、④効果、⑤学習態度、⑥学習成果について調査を行います。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果

⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

平成28年度「学習行動についての調査」

「学習行動」についての調査は、学生の皆さんが行っている学習について、①場所、②時間、③内容、④効果、⑤学習態度、⑥学習成果について調査を行います。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

① 場所 ② 時間 ③ 内容 ④ 効果 ⑤ 学習態度 ⑥ 学習成果

皆さんの学習行動の改善に役立ちます。調査結果は、皆さんの学習行動の改善に役立ちます。また、学習態度、学習成果をよりよく改善するために活用させていただきます。

アセスメントの理念と目的

「個々の学生の成長を支援する」

「教育の質保証」

3つのポリシーの実践による入口から出口まで質保証

「教える」と「学ぶ」を支える IR とは

関西大学 教育推進部 教授 森 朋子



大学コンソーシアム京都 第22回FDフォーラム
【第11分科会】学生の主体的な学びと自律性を育む教育の可視化を探究する

「教える」と「学ぶ」を支えるIRとは

森 朋子（関西大学）

発表の流れ

- はじめに
- 学習研究の視点
- 本学の教学・学修IR
- まとめ

はじめに

（当時の森が）教学IRに抱いていた課題

- 1 教育の改善を目指しても、学生の学びの質向上には間接的
→教育じゃなくて、そもそも学習でしょ？
- 2 1つのデータ、1つのパターン化した分析からのみ、
学びを見える化
→学生の複雑な学修パターンをつかみきれない
→学生の学びは状況依存
- 3 1部局が推進。関係部署との関係は？
→学内で揉めてるよ？

教学IRって使えない？？？

僭越ながら自己紹介

森 朋子

- 学習研究, 学習理論
- 実践的教育学, 教育方法学

「わかる」プロセスの解明

「教える」の場面を作る

「学ぶ」の場面を作る

認知科学, 心理学, 社会学の調査手法

- 定量的アプローチ（学生調査, 成績分析など）
- 定性的アプローチ（記述分析, 観察, インタビュー調査など）

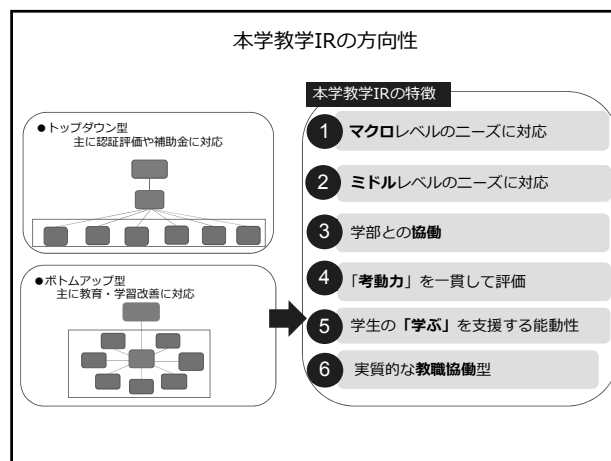
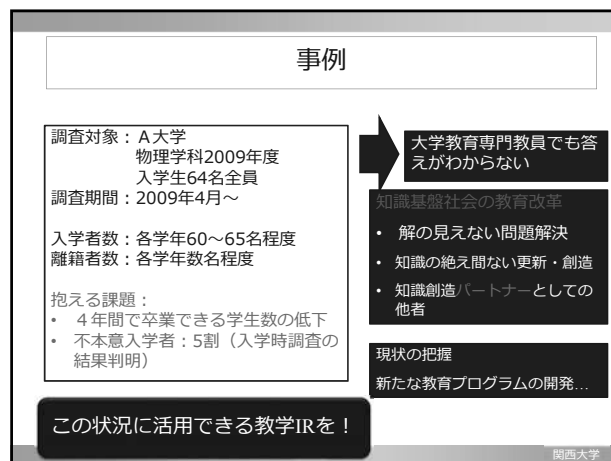
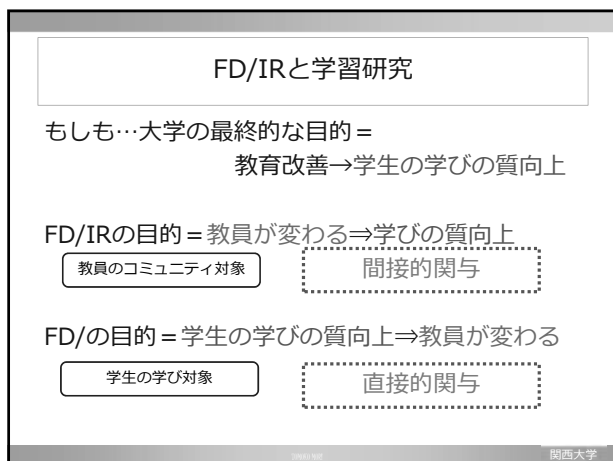
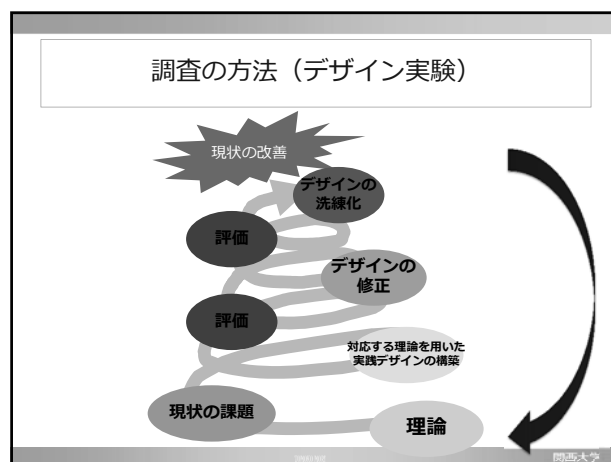
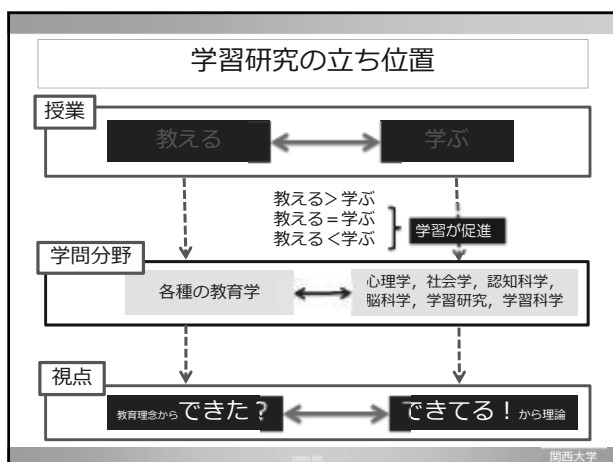
基礎研究

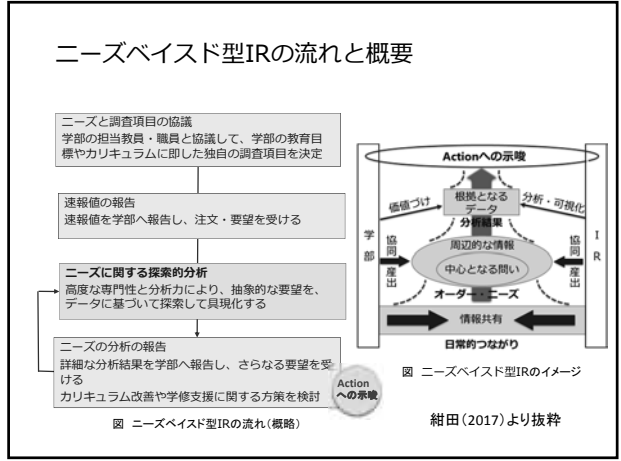
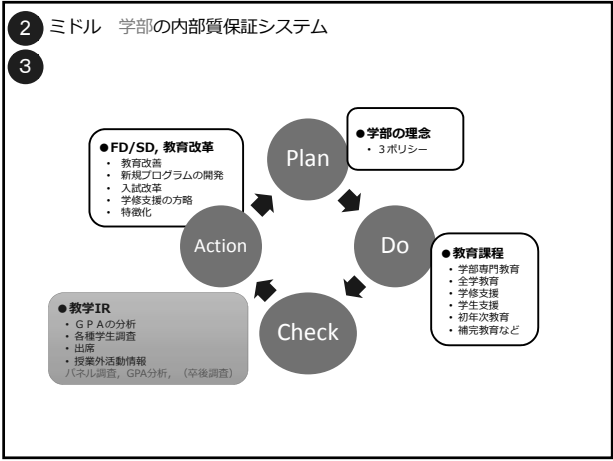
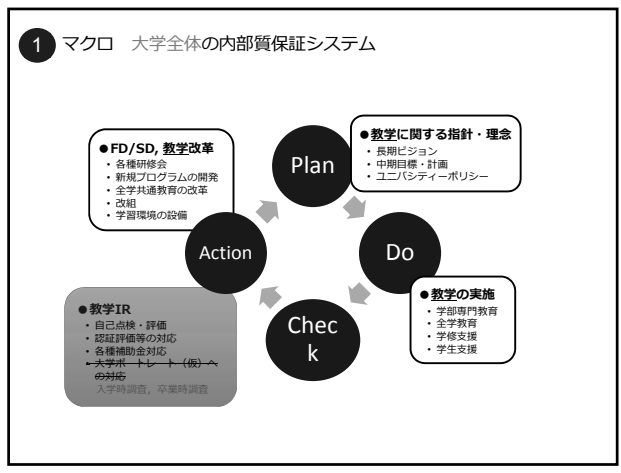
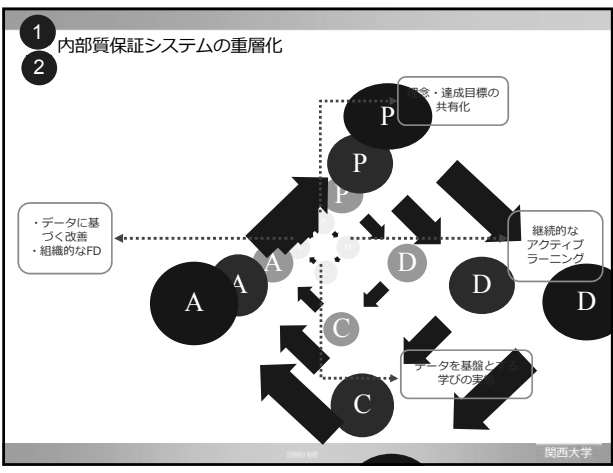
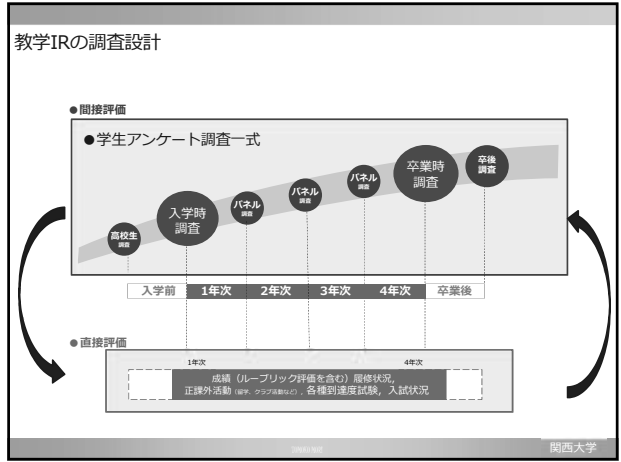
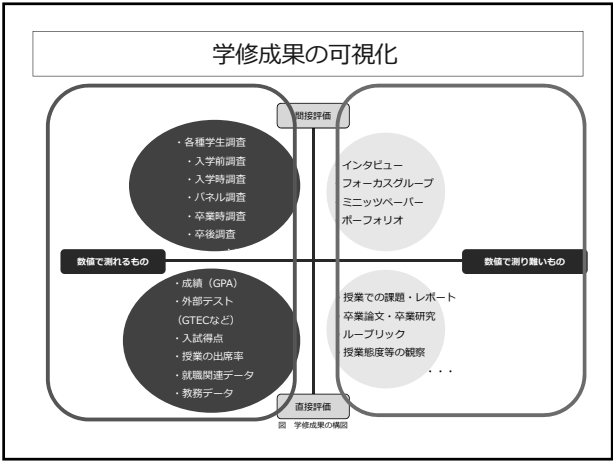
デザイン実験

1. データにより現場の課題を発見
2. 学習理論を用いて教育・学習をデザイン
3. 効果を調査
4. 改善点を発見
5. デザインを改善
6. 効果を調査...

「実践知」が対象！

学習研究の視点





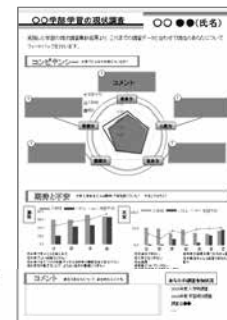
4 考動力を測る（考動力コンピテンシー）

No	能力	中概念	下位	小概念	Qno	説明項目
1	自律力	思考判断力	上位	批判的思考力	10	与えられた情報をそのまま受け止める、多角的に物事をとらえることができる。
			下位	論理的思考・演繹力	7	これまで学んだことを活用することで、物事の関係性を推測できる。
			上位	生涯学習力	5	生涯に渡って、自律的に学び続けることができる。
			下位	メタ認知	19	自らの行動や態度を振り返り、その結果をもとに改善していくことができる。
2	人間力	リーダーシップ	上位	リーダーシップ	14	集団の中でリーダーシップをとることができる。
			下位	結集と発信を用いたコミュニケーション	4	まわりの人とコミュニケーションをとりながら、行動ができる。
			上位	傾聴力	15	相手の意見を丁寧に聞くことができる。
			下位	発力力	18	自分の意見や考えをわかりやすく伝えることができる。
3	社会力	社会の規範と課題	上位	社会課題解決	9	社会が抱えている課題を把握し、解決に向けて踏み込むことができる。
			下位	社会規範遵守	8	集団や社会のルールを守って適切な行動をとることができる。
			上位	社会貢献の実行	20	これまで学んだことや経験を活かし、社会に貢献できる。
			下位	社会貢献の考察	2	自分が社会にどのような貢献ができるかを考えることができる。
4	国際力	英語の習得と活用	上位	英語の向上能力	3	授業以外に、英語運用能力を向上させるための努力ができる。
			下位	英語の活用能力	11	英語で他者とコミュニケーションを取ることができる。
			上位	異文化理解	13	言葉や文化・社会背景の異なる人々が集まる場面において適切にふるまうことができる。
			下位	異文化を促進した行動	1	異なる意見を持つ人々の立場に立って考えることができる。
5	革新力	価値の創造	上位	価値の創造能力	13	既存の概念にとらわれず、新しい価値を生み出すためにチャレンジできる。
			下位	価値の創造の学び	12	自ら進んで新しいことを学ぶことができる。
			上位	問題解決力	6	自ら発見した課題を解決することができる。
			下位	問題発見力	17	現代社会の課題を自ら発見することができる。

5 学生を支援する能動的IR

学生自らが立ち位置を確認することを目的。それにとどまらず、コメントにおいて主体性を促す。

コメントは、全学プログラムや成果外活動などの共通項目＋学部独自のカリキュラムを推奨する内容



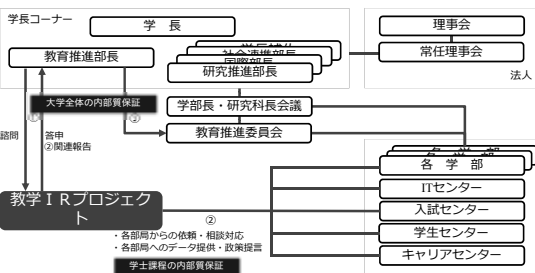
教務センターでの対面の学修支援を予定

6 教学IRプロジェクト関連ガバナンス

●ガバナンスのパターン

- ① 教育推進委員会⇄教育推進部長⇄教学IRプロジェクト : 全学諮問型
② 各部署⇄教学IRプロジェクト : 部局諮問型

●概念図



まとめ

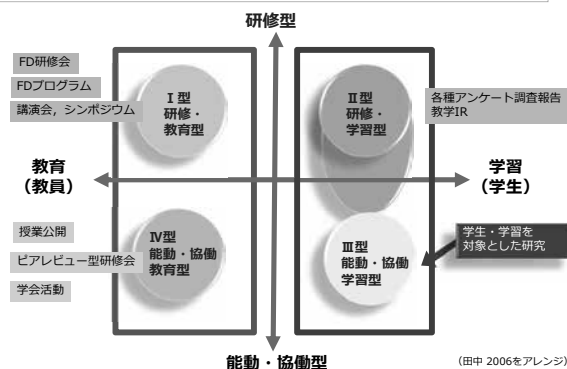
「教える」と「学ぶ」を支援する能動的なIRは

- 「学ぶ」を基盤とする
- 量的アプローチのみならず、多様なデータで学生の学びを立体的に提示できる方法の開発
- 課題解決型
- 学生の学びを中心においた教育の主体とIRの協働関係の構築
- 学内の横断的組織

次の課題は？

- 学生が自らのデータを評価する機会が必要→ポートフォリオ+ショーケース
- 学生の学びのクラスター化（フィードフォワードIR）

教育・学修IRの位置づけ



(田中 2006をアレンジ)

